

## 令和8年第2回玉野市教育委員会 会議録

### I 期 日

令和8年2月4日（水）

### II 会議時間

開会時間：10時00分

閉会時間：11時15分

### III 出席委員

教育長 多田 一也

委員 小野 文子

教育長職務代理者 横山 純子

委員 板倉 宏

### IV 欠席委員

委員 二宮 崇

### V 説明のため出席した職員

教育次長 萱 哲司

教育総務課長 琵琶 学

学校教育課長 的場 佳代

社会教育課長 久富 真吾

学校再編推進課長 森 真志

就学前教育課長 片山 琢巳

（書記）遠藤 真由

### VI 会議内容

#### 1 開 会

#### 2 会議録の承認

##### （1）令和7年第20回教育委員会会議（令和7年12月25日）の議決事項等について

教育長の報告：中学校再編に係る条例改正について

会議録の承認：3件（第17回、18回、19回）

議 事：なし

協 議：玉野市部活動地域展開基本方針（案）について

報 告：令和8年度 幼稚園・保育園・認定こども園の入園申込み状況について 他4件

そ の 他：支援金等の動向について 他1件

（承認）

#### 3 教育長の報告

後閑小学校については、昨年度末から保護者、学校運営協議会、地域へ足を運び、できるだけ丁寧に説明を行い、理解を得られるよう努めてきた。

また、玉野商工高校について、次回の総合教育会議で検討していただく予定である。平成 30 年の議論では、「今後の県立高校の動向を注視しながら検討する」としていた。現在、商工高校だけでなく県立玉野高校も急激に志願者が減少している。県の基準では、最短で 2 年連続 100 人を割ると再編を検討するプランとなっていくので、総合教育会議での問題提起に向けて委員の皆様の意見を伺いたい。

#### 4 協 議

##### (1) 後閑小学校の閉校について

(本件は、玉野市教育委員会会議規則第 6 条第 1 項第 5 号及び第 6 号に該当する事項であるため、非公開とすることを可決した。よって本件の会議録は公表しない。)

#### 5 報 告

##### (1) 玉野市立玉野商工高等学校の現状について

(学校教育課長) 資料により説明

商工高校について、定員に対して年々志願者が減少し、令和 5 年度には入学者数が 100 名を切った。全国募集の実施や、令和 6 年度からのビジネス情報科の定員減などの対策を行ったが、依然として定員割れが続いている。今年度の特別入学者選抜(商工志願者のほぼ全員が受験)においても、本日の実際の受験者は計 85 名(ビジネス情報科 50 名、機械科 35 名)にとどまり、学校の魅力化を図っているものの志願者激減に歯止めが掛かっていない状況である。

一方で、定時制の備南高校は定員割れではあるものの、ここ数年入学者数は増加傾向にあり、今年度も 30 名前後の入学希望がある。

市内中学生が市内の公立 4 校(商工・備南・玉野・光南)へ進学する割合を見ると、平成 30 年の 6 割超から年々減少し、今年度の希望調査では 50.5%まで低下している。この志願者激減の背景には、少子化による市内・県内の中学卒業者数の激減がある。また、特別支援学級の生徒増に伴う進路の多様化も影響しており、公立高校を希望する生徒の全体数が減っている状況である。

(多田教育長) 市内の高校の現状、特に商工高校の志願者数の推移について説明した。今後の商工高校のあり方について、委員の皆様が思われていることをご発言いただきたい。

岡山県には 60 を超える全日制高校があるが、市立の全日制高校は岡山後楽館高校と玉野商工の 2 校のみである。学校運営は県立高校に準じており、あまり県立と差がないように運営してきている。

(横山委員) 子供の数がこれだけ減り、市内中学生が市外に出ている状況もあって、本当に革命的なことが起こらない限りこの状況は変わら

ないだろうということがよくわかった。しかし、去年商工高校の視察に行かせていただき、特に機械科において、地元企業で実際の従業員のの方に指導してもらっている取り組みは素晴らしいと思った。事業者の方も人手不足で技術を継承していきたいが高校生が地元に残らない、欲しいと。技術継承には期間がかかるという話をよく聞いていたので、事業者と高校生が結びつくことはお互いにとって良いと感じた。この機械科や情報ビジネス科という、普通科ではない専門学科としての特性はぜひ残して欲しい。このエッセンスを失くしてしまうのは良くないと思っているので、その特性を残しつつ、生かしつつ、学校運営ができる一定の規模というところも考えていかなければいけないと思っている。

(多田教育長)

機械科の取り組みは全国でも例がないと思う。学校に実習棟を持たずに機械科を持っているというのは多分ない。学校によっては実習棟が十分でないため、企業へ出ていくインターンシップの長期版デュアルシステムとして、一定期間企業へ行っても単位認定するという例はあるが、商工の場合は一切学校に実習棟を持っていない。このやり方は珍しいというか画期的であり、それには企業が本当にすごい協力をしてきているから成り立っている。

(横山委員)

新聞でも地元企業と一緒に高校生がやっているという記事を最近よく見るので、とても頑張っていると感じている。企業の方もすごく協力してくれる状況があるので、この特性はぜひ維持して欲しいと思っている。

(板倉委員)

私も同意見である。昨年度見せていただき、本当にいい取り組みをされていると感じた。高校生にとっても企業にとっても良い取り組みであり、この部分はぜひ残したいという思いは強い。しかし気になっているのは、卒業生が少なくなっている状況の中で、市内中学生の玉野市内への進学割合がどんどん下がっていることである。本来的にはこれをどうにかしたいという思いがある。それぞれ魅力ある取り組みをされているが、より市外へ流出しているため、もっと何かインパクトがあるようなものが必要なのかと思っている。私立の特別進学コースではないが、大学進学を見据えたときに有利になるようなところが欲しいという思いがある。また、商工高校は就職率が良いので、そういうところがより認知されるようなことも必要なのかと感じている。

(小野委員)

昨年商工高校に行かせていただき、校長の理念がしっかりされていると感じた。アドミッションポリシーにしても、こういう生徒が欲しいということを言われていたし、カリキュラムに関してもこういう力をつけさせたいというのが伝わってきた。このように形作っているのに人が少ないというのはとても残念に思った。できれば定員 80 人のうち 7 割は満たしてほしい。

機械科について考えたとき、最初は高校に実習室がないというのはマイナスの話だったと思ったが、それが外でやるということのプラスの効果になった。そして就職率もとても良いというところが魅力になっていると思うので、情報ビジネス科に来る生徒の就職先についても、もう少し「こうしたら確実にいける」という道筋を示し、市内のこういうところに勤められると示してあげると、変わってくるのではないかと思った。

また、商工高校全体を考えると、玉野高校とのバランスは切り離して考えられないと思う。

(多田教育長) 機械科については特色があり、市内でも良いという評価がある。70年の歴史がある商業科については、玉野市にある商業科を持つ学校としてどう思われるか。県南でいくと、岡山東商業、南高校、倉敷商業などが通学範囲になってくる。全国的には商業科の人気の陰りがあった時代もあり、京都などは商業高校が一つも無い。名前をビジネス情報や国際情報と言い換えて商業の勉強をしているが、ビジネス情報が今一番定員を満たせていない。学校の教員も校長をはじめすごく努力されているのはよくわかるが、今までは、玉野の子供がかなりいたので市内の割合で定員を満たせていた。しかし、市内の子供がどんどん減っているのと、令和8年から私立の無償化が始まるため、今年50.5%であった市内進学率の低下がさらに加速すると思う。それは市内にある学校がさらに岡山に行かせないだけの魅力ある学校に変われば別であるが。総合教育会議のときの問題提起として、今から取り組みを始めないと、商工で新しい学科を作ったり色んな行事をやって子供を呼ぼうと言っても到底難しいということである。

(板倉委員) 今、県の方は玉野の高校について何か言われていることはないのか。将来的に宇野の周辺に高校が一つもないようなことにはなっていて欲しくないと思う。

(多田教育長) 県の再編基準では、2年連続100人を切った場合は、募集停止であることから、玉野高校がここで100人を切り、さらに来年も100人を切ったら再編対象となるだろう。まちづくりに関係するが、玉野市の中心部に学校がなくなって本当にいいのかということもある。

令和8年度の入試で2月末に出願をして人数が決まる。大体希望調査と変わらないので、微増はあるかもしれないが激増は多分ない。ここで玉野高校がもし今年と同じような数字だったら募集停止となってしまう。その時、商工高校をどうするか、玉野市はどうするかということになる。

(小野委員) 高等学校の定員の最低基準というのがあるのか。

(多田教育長) 4クラスである。高等学校の質を担保するためには4クラスが適正

規模ということで岡山県はずっとやっているが、令和に入って4クラスの定員が満たせない学校がたくさん出てきた。現在3クラス規模の学校は13校ある。県教委の決まりの中で、令和10年までは、市町に一つは100人を切っても残すと言っている。例えば和気町に和気閑谷高校があるが、ほぼ100人を切っている。しかし令和10年までは再編の対象にしない。矢掛町にある矢掛高校も再編の対象にしない。そういうブロックをかけているので令和10年までは残るが、その後はどうなるかわからない。玉野も学校の数が多いエリアである。

(小野委員) 1クラスの人数の定義は40人か。

(多田教育長) そうである。それで教員配置をしている。

(萱教育次長) 今日の資料の中で説明があったが、現在の市内中学卒業者数は350人である。高校に入る15歳は15年前に生まれた子供たちである。今から10年後を過ぎると、出生者数は300から200へとまだまだ右肩下がりにになっていく。それとともに、私立学校の無償化がどの程度影響があるか。玉野高校の志願者減に非常に顕著に表れており、同じように商工高校にも波が押し寄せ、拍車をかけている。今定員割れしている数字は、2年後、3年後、5年後にはまだまだ下がっていくのではないかと考えている。そういった中で、これから入学しようとする玉野の子供たちのための商工高校のあり方を考える必要がある。もちろん同窓会や地域の方々の思いもあるが、一番優先されるべきは子供たちのための商工高校をどうしていくかという議論が必要だと思う。

(多田教育長) 学校教育課長から説明があったが、一般入試の欠席は最近非常に増えている。また、特別入試の欠席というのは珍しいが、出願して特別入試をやめるというケースが出ている。定員を1クラス減らして3年目であり、3クラスが完成年度となる。教員数は減っており、色々な意味で学校運営や部活動がやりづらくなっている現状がどんどん進んでいるということである。

(横山委員) やはりこの界隈に高校がないというのは、なかなか受け入れがたいと思う。

(多田教育長) 宇野駅から近く、立地として良いところにあった高校がこれだけ志願者を減らしているということも大きな問題であるが、全国的に今、普通科は人気がない。全国の6割が普通科であり、普通科改革と言われている。

(横山委員) 情報ビジネス科についてどうかというお話があったが、機械科は名称から何をしているかがわかりやすくイメージしやすい。しかし、情報ビジネス科はその先にどういう進路があるのか、何をしているのが実はイメージしにくい。これから高校を選択しようという場合にも、情報ビジネス科って何だろうという問題、情報

ビジネス科としての魅力をあまり感じられない状況があり、名称も内容も見直しをしていかないと、このまま維持存続していくのは難しいだろうと思う。特別進学コースや英語科など、今の時代にあった科を考えていかないと、もう人が集まらないだろうと思う。

(多田教育長) 総合教育会議でそういったご意見をいただきたい。

(社会教育課長) まちづくりに関わる問題である。中心市街地から高校がなくなると、子供たちの交流がなくなり空洞化し、玉野市の衰退や人口減少に直結することになる。やはり玉野市の周辺地域に1校は残すべきだと思うので、そのあたりをどうしていくかを皆さんにご意見いただきながら進めていけばいいのかなと思う。

(就学前教育課長) 高校の統廃合で減っていった場合、高校の先生方はどのような対応になるのか。

(多田教育長) 高校の場合は任命権者が県なので、一つの学校がなくなっても必ずどこかへ異動になる。

(学校教育課長) 子供の激減と進路の多様性により市外へ出る要因として、私立の無償化があるが、もう一つ大きな要因として定時制・通信制への希望者が多いことがある。不登校が増えている中、高校を考えたときに定時制・通信制を選ぶ子が増えている。

また、玉野にとっての高校と考えたとき、市立の商工であったり学区の玉野高校であったり、地理的にも玉野の中心部に地元の高校が絶対に必要なのではないか。そういう思いを持ってどう進めていくか、色んな方と話ができたらいい。

(萱教育次長) 私学無償化の影響が一番拍車をかけている。玉野には私立が無いので皆さん岡山・倉敷に出てしまう。総合教育会議に向けてのキックオフとして、これから他の教育委員の皆様にもこの問題をしっかり考えていただきたい。教育委員会としてはどう考えるか、我々も商工高校の実情について情報提供していくので、しっかりと議論して欲しいと思っている。

(多田教育長) 総合教育会議は決定機関ではないため、まずはキックオフとして問題提起を行い、今後早急に議論を重ねていくこととしたい。

## 6 閉 会

次回、教育委員会は令和8年2月17日(火)14:00から開催するので参集願う。以上で、令和8年第2回教育委員会を閉会する。

会議録調整者

書記

遠藤 真由

会議録署名委員

教育長

多田 一也

教育長職務代理者

横山 純子